

多摩第二小学校・東愛宕小学校（愛宕地区統合新校）通学区域の変更に関する保護者説明会の概要

開催日時	平成24年9月1日（土）午後1時～4時
会場	多摩第二小多目的室（説明・発表）各教室（グループでの意見交換）
説明者	教育委員会（教育委員5名、事務局5名）、学校長（多摩第二小校長、東愛宕小副校長） 市議会（子ども教育常任委員会委員6名）、青少協（第二地区、東愛宕地区委員会会長）
対象	学区変更予定区域に居住する多摩第二小1・2・3年生の保護者、未就学児の保護者
参加者	48名（意見交換44名） （対象世帯303世帯）

■説明した内容

●教育委員会事務局 田島教育部副参事・川島教育部参事・・・「別紙資料」参照

資料に基づき、これまでの経過、当該地区における教育環境整備の必要性、通学区域の変更方法として、一斉異動方式をとる理由など、計画（原案）の考え方について説明しました。東愛宕小に安心して転籍いただくため、実施を検討している対策、モデル事業の内容について説明しました。

●学校長

○多摩第二小学校 佐島校長・・・2ページ

現在の多摩第二小の教育環境には、安全面、健康面、行事等の運営面、学習面で不便な点があること、校舎建替え時に想定される不安な点などについて話がありました。

○東愛宕小学校 岡校長（代理 木下副校長）・・・3ページ

東愛宕小のこれまでの経過、小規模校であることに起因して、クラス替えができない、男女比のバランスが悪いなどの様々な課題があることなどについて話がありました。

●市議会（子ども教育常任委員会） 岩永委員長・・・4ページ

多摩第二小、愛宕地区の学校の教育環境を向上させるために、議会としても様々な努力をしていくので、保護者の皆さんにも東愛宕小に移っていただくことにご協力をお願いしたいとの話がありました。

●青少協地区委員会

○第二地区委員会 井上会長・・・5ページ

愛宕地区では以前からこのような状況がある中で対応が遅れたために、悪化させてしまった。早い段階で解決すべきとは思いますが、時間をかけていくことも必要であるとの話がありました。

○東愛宕地区委員会 井上会長・・・6ページ

愛宕地区に移り住み、学校を中心にしてコミュニティを形成し、地域で青少協の活動を行ってきた。いろいろな不安もある中で、愛宕地区の事業を覗いて、参加してほしいとの話がありました。

■意見交換の発表内容

●各グループの発表者による、意見交換した内容の発表・・・7ページ

- 1グループ（5名） ○2グループ（6名） ○3グループ（5名） ○4グループ（7名）
- 5グループ（5名） ○6グループ（6名） ○7グループ（6名） ○8グループ（4名）

■まとめ

●教育委員会 中澤委員長・・・13ページ

教育委員会事務局

○「別紙資料」に基づく説明

多摩第二小学校 佐島校長

- 保護者の皆様には多摩第二小学校の教育活動に関し、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。二小の子どもたちは厳しい教育環境の中で一生懸命やっている。これは皆さんの協力のお陰であり、感謝している。
- 自分は担任の時代から一度関わった子どもはどこに居ても何時になっても気になり、関わりのあった子どもたちには非常に愛着の気持ちがある。
- 正直に言えば、教育委員会あるいは市の方で計画的に学区の変更、校舎の建替えというようなことを進めてくれば、という思いがある。我々は子どもたちの為に仕事をしているので、最終的に子どもたちが苦しむようなことはなるべく避けたいと思っている。
- とはいえ、このままではいけないということで、現状について話をさせていただく。大きく5点の不便、困っていることがある。
- 1点目は安全面である。一学期の7月になってから、3日連続で子どもを病院に連れて行くことがあった。廊下を走ったりしないよう「廊下歩き隊」というようなものを編制して安全には気をつけてはいるところだが、やはり人が多いとそういうことがある。
- 2点目は健康面のことであるが、この教室は昔パソコン教室、隣は音楽室であった。今、5年生の2クラスが旧音楽室を教室として使っている。元々大きな続いた教室なので、エアコンのスイッチが1ヶ所しかない。トイレもないので、休み時間毎に3階にトイレに降りて行くという不便を子どもたちに強いているということもある。職員室もスペースがなく、すれ違うのが大変な中で職員は必死に働いている。狭いところにたくさん居るといことは、様々なストレスがあるわけで、健康という面では子どもたちのことも職員のこと校長としては心配である。
- 3点目として、様々な行事等の運営に困難がある。運動会でも見ていただくことで苦勞されたこともあると思うが、狭いところに沢山来ていただき、盛り上がることは良いがその反面、申し訳ないと思う。学芸会で狭い通路を昇り降りし、体育館の入り口が非常に狭いので人の身動きが取れず、自分の子どもの演技になっても入れないという状況があり、かなり混乱したという話も聞いている。
- 4点目として学習面でも様々な影響がある。本校は算数の少人数指導のための教員を1名もらっているが、通常は算数の少人数教室をやっており、グループを分け、人数を減らして指導しているが、教室が無いためにこれができず、ティームティーチングで指導している。工夫により効果を上げていると思っているが、そういう面でも課題がある。また、音楽室は下校庭のプレハブにあるので、南校舎の子どもたちは北校舎を通り、体育館脇を通り、音楽室に行くにも休み時間では足りないのではないかという状況の中で学習をしている。
- 5点目に将来的なことを考えると、校舎の建替えのことがあり、今のところの計画では平成26・27年度は現校庭に新校舎を建て、校舎が建ち終わったら引越しをして旧校舎を解体することとなっており、2年間校庭が使えない状態となる。その中で800人からの子どもたちが生活していくことを想像すると何とかしなければならぬのだが、非常に心配するところがある。
- この後、協議していくようだが、このような現状も踏まえていただき、皆さんの意見をいただきたい。

○今日は学校長が事情により参加できませんので、私が代理でお話をさせていただきます。本日はあくまで現在の学校の様子を皆様にお知らせするという事で、説明させていただきます。

○まず、東愛宕小学校の規模の変化についてお話しいたします。東愛宕小学校は、昭和47年4月に児童数327名13学級で開校しました。現在のニュータウン地区では一番歴史のある学校になります。開校して3年目には児童数1,058名27学級でピークを迎えます。徐々に児童数は減るものの、平成5年までは各学年2学級の12学級規模の学校でした。その後も児童数は減少し、平成12年度から各学年1学級、6学級規模の小規模校になりました。平成19年からは、情緒障害学級（通級学級）「おおぞら」が開級し、市内各校からの児童が通級し、現在57名6学級になっています。

○次に、現在の学校の様子について説明をします。児童数は81名全学年1学級の6学級です。市内で一番小規模校になります。小規模校の利点を最大限に活かした学校運営を行い、一人ひとりにきめ細かい指導をしています。

○反面、次のような点については、物理的に解決が難しいものになっています。

1 クラス替えができない

よくも悪くも、6年間人間関係が固定されたままになってしまいます。

2 男女比のバランスが悪い

現在、男子2名。女子12名というアンバランスな学年があります。高学年になったときの体育の時間や移動教室など、十分に活動できない心配があります。

3 委員会やクラブ活動が制約される

4年生以上のクラブ活動では、人数の関係で5つしかクラブがないので、希望が十分に生かされていない面もあります。当然、委員会活動も5つの委員会しかできないので、図書委員会など本来必要な委員会もないのが現状です。

4 学校行事で迫りに欠ける

運動会では、棒倒しはできない。騎馬戦の迫力がかかる。短距離走では1レースの人数が少なく、すぐ終わってしまいます。学芸会では、登場人物が少ない劇が中心になりやすいです。一人で2、3役をやり台詞をたくさん覚える必要があります。連合音楽会には、5・6年で参加しますが、それでも30名前後で、1学年で100名を超える学校に圧倒される感じがあります。

5 校内の清掃が大変

1クラスで何カ所も分担があります。また、1カ所の人数も数人で行っています。（その分、みんなが一生懸命に掃除をしています）

6 初任者を採用しにくい

全学年が単学級のため、学級イコール学年になるので、初めて教員になる初任者には負担が大きく、採用しづらいです…結果として若手の先生が少なくなる傾向にあります。

7 PTA活動での負担が大きい

児童数が少なくてもPTAの活動内容は規模の大きい学校と同じですから、負担は大きくなります。一番単純なのは、役員をやる回数が多くなる可能性が高いですね。一人のお子さんにつき卒業までに2回役員をやる可能性が高くなります。

○以上が小規模による課題と思える現状です。しかし、誤解をしないでいただきたいのは、現在本校の教育活動が問題を抱えているわけではありません。小規模校でのメリットもたくさんあります。現在はメリットを最大限に活かし教育活動を行っています。小規模校だからできること小規模校ならではの

のよさもあります。

- 児童数が増え、学校規模が大きくなることで、先ほどお伝えしたような点が解消されていけば、小規模校のノウハウを活かして、より質の高い教育を実践することができると考えております。最後に、本校の活動につきましては、学校公開等、自由に参観していただく機会もありますので、どうぞ参観ください。

市議会子ども教育常任委員会 岩永委員長

- 本日は市議会の子ども教育常任委員会としてこの場に参加した。通常、説明会の場に市議会がこういう形で参加をするということは有り得ず、市政の中で見ても今回初めてのことでないかと考えている。何故、我々がここに居るかということ自分なりにまとめて話をさせていただきたい。
- この問題について、自分はずっと子ども教育常任委員会で関わっている。二小と竜ヶ峰小の統合の問題、そしてそれと共に学校環境をよくするという二小の建替えの問題、そこにまつわってニュータウン区域外で大変宅地造成も進んでいるので、新たに住まわれる方もいらっしゃる。子どもが急増している中で二小のみならず、一小・東寺方小等でも通学区域の見直しということで、この二小に通われている皆さんも該当されているが、通学区域の変更に協力いただいていると理解している。
- 財政が潤沢にある時代だと学校の建替えについてもスムーズにいったかと思うが、皆さんも様々なところで聞き及んでいると思うが、多摩市も非常に財政状況が厳しい中で我々市議会としても、そして我々子ども教育常任委員会としても、何とか教育行政にお金を振り分けていきたいと思いながらもそうできない現状の中で、今この問題に放り込まれ、当事者として巻き込まれている皆さんに本当にお詫びをしなければいけない点が多々あると思っている。二小の建替え問題については学校が統合と共に建替えるということで皆さんにもたくさんの協力をいただいているにも拘らず、そうできなかった。
- また、二小が建替えるかもしれない、きれいになるということで学校環境が選ばれて二小の地域に転居されてきた方もいられると思う。そういう皆さんにとっては教育委員会の判断、今示している方針について大変不満に思い、不本意に感じられるところも多いと思う。
- それを前提に我々の委員会でも大変財政が厳しくなっているが、何とか二小の建替えを含めて成功させていきたい。そしてニュータウン区域の学校が減っているので、東・西愛宕の小学校についても統合が目前に迫る中で、学校の改修も予定に入っている。
- それらをもう一度ゼロの視点で、財政が厳しくなってから再構築をしていかなければいけない状況に置かれた時に我々は改めて二小のPTCAの皆さんや東愛宕小学校のPTAの皆さんと今のメンバーで二回程意見交換をさせていただいた。議員はそれぞれの地域で皆さんからの様々なご意見を聞きながら、今回の二小の建替え問題を含んで区域をどうしたらよいかを考えてきたというのが我々の現状である。
- フロアからは強制転校をさせられるという話もあった。自分も小学校2年生の娘がいるので、木下副校長から東愛宕小のデメリットの話をされると率直な現状説明でよいと思う一方で、もし子どもが行くようになったらどうなるのか不安に思った。だからこそ皆さんがこの段階で強制転校を余儀なくされる、ある意味で強権を発動して皆さんに協力をいただくことになるので、できる限りこの中で皆さん自身にご納得をいただける形で今回の通学区域の変更をさせていただきたいというのが我々の願いである。
- 学校の建替えということの中ではクラス数の問題もあり、普通教室のみならず音楽室や技術室等他の教室も作り込んでいかなければならないので、手狭な二小のグラウンドの中でどのような学校の建て方

をしていけるかが課題であった。そのことを思うとこのままの学区域で新しい学校をつくろうとするとかかなり大きな規模の建物が必要となる。

- 隣に目を転じると今回話題となっている東愛宕小はまだまだ余裕があり、学校も非常にきれいである。そんな中でまだまだ課題はあるが、もし、皆さんにご協力いただき、東愛宕小にはそれなりにきちんと手を入れていくということに皆さんの信頼が得られれば、皆さんに選択等の判断をしていただきたいというのが我々の願いである。
- 皆さんには様々なご意見があると思うが、ワークショップの中でもご意見を出していただきたいと思っているが、我々委員会としては東愛宕小にできれば皆さんに移っていただくことをお願いしたい。それにあたっては皆さんにも様々な条件があると思う。不安もあるかと思う。今の教育委員会のやり方には不信感も多々あると思うので、教育委員会が何を言っても信用できないとの声もあるのではないかと考えているが、我々としては東愛宕小にできる限りのことはさせていただきたい。そのために議会として働きかけができるところはやっていきたいし、必ず東愛宕小をよくするために皆さんとも協力をさせていただきたいと思っているので、皆さんがどのようなお考えを持っているか聞きたいと思いいこの場に参加した。
- ここには地域で選出された白田議員もいるので、昔のことを紐解きながら我々も議論もさせていただいた。地域の皆さんには毎度嫌な思いをさせていることも理解しながら、度々のお願いで東愛宕小への地域の変更をお願いせざるを得ないという状況になってきたことに心苦しさはあるが、皆さんと一緒にやってよい方向に動いていくようにと思っているので理解してほしい。

青少協第二地区委員会 井上会長

- 自分は百草に在住している。子どもは既に成人しており、青少協は3年前から会長をしている。今二人の校長から説明があったが、素直な感想として愛宕の学校の子どもはかわいそうで、二小の子どもは大変であると思った。
- 自分は二小・多摩中を卒業しており、自分が4年生までは第二分校ということでここにいた。5年生からは本校に行くことになるが、同じ時期に南側の校舎ができ、二小となった。その時の児童数は350人位だと思うが、今と違いプールが上にあった。今より少し狭く350人いると校庭が狭いと感じた。今は当時の倍以上の800人いるので校庭が狭い。
- 愛宕の学校だが、ニュータウンの中で整備された学校なので、一般の小学校の規模に比べ多少水増ししてできている。そういう意味では校庭など良い環境できているのではないかと思う。今、校長先生から話のあったことはここ4・5年でこういう状況になったのではなく、昭和47年にニュータウンに入居しているが、平成に入った頃に既にこういう状況になるのがわかっていたと思う。和田地区については区画整理事業が施行されており、中和田と上和田は平成15年頃に換地処分されていると思う。事業計画が平成7・8年頃だと思うが、その頃に今のような話がスタートしていなければいけなかった。
- そういうことで準備していれば在校生もそんなに多くなく、ストレスも少なくできたと思っている。それは市役所・教育委員会、我々父兄も見過ぎてしまった。愛宕の学校がそういう状況になっても二小はどうにかもっていた。ここにきて二小の教室が足りなくなるという状況が出てきて、始めて市が動き出し、今まで何をやってたんだというのが正直なところである。ここに来ている皆もそのように思っていると考える。それで学校選択制もなくなるということで、愛宕に行けという話を持ってきても中々理解してもらえないと思う。

- 先ほど事務局から「魅力ある学校づくり」という話もあったが、当然、学校選択制の時代にそういうことをやって、黙っていても皆が愛宕に行くような気持ちにしなければいけなかった。結果として既に二小からたくさんのお子さんが行っているの、そこで線を引くというのが自然の流れだと思う。既に、桜ヶ丘地区については東寺方小に半分近く通っている状況があって、それを後追いするような形で平成25年度から線引きされるということで、そういう意味ではここについては他の地区と違う状況だと思う。上からそのような案が降りてきているという状況だと思う。
- ただし、校長から話があったように、どうしようもない段階に来てしまっていると思う。やはり学区を見直し、それぞれ同じような規模の学校にしていくことは必要な方向だと思う。同じ多摩市に住んでいながら、愛宕に住んでいる子どもは6年間クラス替えもないような学校に行き、二小地区の子どもたちは教室が一杯で校庭も狭いようなところで過ごさなければならないということを早い段階で解消しなければならないと思う。ただ、来年度から行けということでストレスを感じている人も沢山いると思う。できれば1・2年時間をかけて実施していくのが良いと考える。

青少協東愛宕地区委員会 井上会長

- 今日は、東愛宕地区委員会のPRをさせていただきます。
- 40年前は住宅の足りない時代で、結婚時には6畳一間のアパートに住んでいたとの話題で盛り上がったこともある。この時代にニュータウンの建設も始まった。愛宕に入居した人たちは殆んど同じ条件の人であった。くじ引きで多摩ニュータウンの愛宕の団地が当たった。どんなにうれしく、子どもたちの手を引いて引っ越してきたであろうか。西愛宕を含めて賃貸や分譲もあり、周りを見渡すと多摩の田園地帯が広がっていた。今でこそ緑が一杯になっているが、建設時は風が吹くと大きな拳大の石が飛んできた。でも、うれしかった。銭湯に子どもを連れて行かず、家で風呂に入れ、部屋も一つではない。皆で勢い込んで色々な地域から集まった。2,000世帯近くであった。
- 小学校を中心にコミュニティづくりを始め、運動会や盆踊りもやった。愛宕音頭の作詞・作曲は自分たちでやった。東愛宕小学校の運動会に是非、来てもらいたい。愛宕太鼓もあり、「愛宕」という名前を持った我々コミュニティづくりで頑張ってきたのが学校を中心としたことである。ニュータウンができ、新しい家ができ、引越しもあり、移動してしまったことで子どもが少なくなってきたが、思いを込めてきた「愛宕」であるから、地区委員会活動を情熱で熱くやっている。
- 今、何をしているかという、一つは老人会の協力を非常に得ている。単純な言い方をすればかつてのPTA。引越しをして殆んど残っていないが、伝統というか、とても思いを込めて見ていただいている。和田郵便局ともう一箇所8年近くなるが毎朝、「朝の声かけ運動」で子どもたちと付き合ってくれる老人会がある。
- もう一つは子どもが減ってきてベースになる地区委員会の活動をする母親が減り、連携をたくさんとっているのが共催事業が多い。愛宕児童館が東愛宕小のすぐ隣にあるので、児童館との共催事業がたくさんある。児童館との共催事業が多い理由は児童のエリアが東愛宕小だけではなく、他のエリアとの連携もすごく多いということである。東愛宕地区委員会の活動に参加する子どもは東愛宕小だけではなく、いろいろな地域で、東愛宕、西愛宕、第三小学校の子どもも入っている。このように他地区との連携も多く持っている。小さな事業を土曜日毎に多くやっており、いろいろなグループの方に協力をいただきながら楽しい小さな事業で大きな事業はやっていない。是非、「たまの子ども」を見ていただき、事業に参加してほしい。いろいろな不安もある中で、愛宕地区の事業を覗いてほしい。

1 グループ発表内容

- 1グループは強制転校ありきの形でシートを作ってくれとのことで、とりあえずディスカッションをしながら多少まとめたものを発表したい。
- 今回の件についていろいろ考えている中で、一斉異動ありきでの話の組み方は納得いかない。東愛宕小と西愛宕小の統合の方が先だと思うのに、何故自分たちが先に統合しなくてはいけないのか。また、何回かの統合では非常に負担がかかる。
- 青少協東愛宕地区会長の発言にもあったが、愛宕児童館と2回程共催していたが、「東愛宕小と西愛宕小と三小とで事業を行っている。」ということは三小とコミュニティは作られているということで、三小とのコミュニティを作られている中で、何故三小が入ってこないのか。そして今回の話の中で三小に通っている東愛宕小と西愛宕小の対象地区の児童の統合校にすべきではないか。何故そこが対象外なのかということも含め、今の段階の案ではとても納得いかない。
- 一度この案を廃止して、もう一度、二小、東愛宕小、西愛宕小、そして三小も含めた形での新しい学校を考えるべきではないか。
- 二番目の「新たな学校づくりを進めていくための課題、これに対する対応策について」は、いいことばかりでなく、ちゃんと守ってほしい。二小の建替えの件は竜ヶ峰小との統合時の約束である。お金がないとのことで何も守られていない。今回もいろいろと「基礎学力の定着」「ピアティーチャー」「大学連携」を考えるとあるが、考えることは誰でもできる。考えるのではなく、予算建てし、きちんと計画してほしい。まとめとして約束を守ってほしい。それができなければ、我々は納得できない。

2 グループ発表内容

- 今回6人で議論し、1グループでも言っていたがクエスションは、転籍することが前提となっている。新しい学校づくりを進めていくことの課題だとか、我々とは温度差がある。よって、もう一度振り出しに戻って意見を出した。従ってこのクエスションに対する答えではないが、いくつかまとめた。
- 結論から言うと、我々のグループで賛成する者はいなかった。皆、反対であった。その理由で一番大きなものはやはり子どもたちにとっての負担が大きすぎるということを皆が声を大にして言っていた。特に在学の子たちに対しては強制的に転籍させることはかわいそうであるとか、負担が大きいという意見が多かった。
- 自分の子どもはまだ二小に通っておらず保育園であるが、実際に二小で子どもたちが本当に不便に感じているのかをすごく聞きたかったので、実際に在学している保護者に聞くと校長の説明ほど負担には感じていない。皆、楽しんでいるし、運動会も人は多いが楽しんでいるという意見が多かった。このようなことを聞きたかったので、この意見はすごく大事だと思う。
- 子どもの負担が大きいということが一番ポイントだが、統合・転籍のプロセスに大きな問題があるのではないかと。パブリックコメントを募って説明会をし、この場に集まった方はパブリックコメントのフィードバックや、実際に皆の意見を募って原案をどう変更したのか、又は変更しようと思っているのかと次に進んだ議論ができるのではないかと期待をしている人が多いようだ。ただ原案は変わらない。変わらずその説明を続ける。理解してほしいではこの問題は大きすぎるのではないかと。
- また、急ぐ意味があるのかということについて振って沸いてきた話で、9月には決めなければいけないというようなところで、東・西愛宕小の統合も何年も話が続けられており、竜ヶ峰小の廃校で二小に移るとすることも何年も話し合った。何故、ここだけが半年、一年と急な感じがする。

○最後に、未就学児の保護者の不安についても説明したい。例えば兄姉が二小に通っており、下の子が幼稚園・保育園に通っている場合、いずれ東愛宕小に移ることが決まっているなら下の子は最初から東愛宕小に入れようかとのアイデアはある。でも、この問題の紛糾で何も変わらなかったら、そこで兄弟も別れてしまうような最悪な事態が十分考えられる。在校している子どもたちも強制的に転籍させることは無理があるのではないか。今のまま残すのか、若しくは選択をするのかとの余地を与えるのが良いのではないかと思う。

3 グループ発表内容

- 1、2グループと同様な意見が出た。最初に一斉異動方式ありきという質問だが、これについて答えなければいけないのか。これについては反対意見しか出ないということで、これに囚われず保護者としての意見、地域の意見としてパブリックコメントのようなものとして出してもらっても良いとの回答を事務局からもらった。
- 基本的な部分では1、2グループと同じ部分も大分出たが、5月の意見交換会の際の案と7月の説明会の原案が全く違ったということで、子ども自身が一番悲しんでいる状況をつくってしまった。教育委員会がそれをつくったことで泣いている子もいたり、保護者も状況を悪くしてしまったということに納得ができていない。親としても子どもの気持ちを一番に考えると説明もできない。どうして良いか保護者としてどういう立場でどう説明してよいかわからない。
- やむを得ない理由で状況によっては、隣の家で学校が変わってしまうとか、もうちょっと明確な案を出してそれを協議させてもらい、保護者、教育委員会双方が納得できるような状況をつくり、意見を聞いてほしい。今までの意見交換会での返事が全く無かったり、質問に対するまともな回答が無かったりという状況が多々あるので、質問に対しては明確に答えてほしい。
- また、意見交換会で答えたものが覆されている部分があったりしているので、今回のパブリックコメント等も踏まえて教育委員の方々はプロの専門家であるので、子どもの気持ちを踏まえて検討してもらいたい。
- その他に地元の意見を耳にすると愛宕方面の印象が正直良くない。昔からいる人は昔の印象を持っている可能性もあるが、愛宕方面の不審者情報が絶えないこと、東愛宕小の学級崩壊の話を知ったことがあり、実際に転籍するような事態もあるような状況を聞いている。グループの5人のメンバーも転籍を望んでいない状況であった。

4 グループ発表内容

- 自分たちも5人のグループで、1、2、3グループと同じ意見であった。一番目の問題提起に関して最初から一斉異動ということ的前提にして話されていることで、話が止まってしまい進まなかった。これを軸にして一斉異動に関しても意見を出しても良いとのことで、ここから話を始めた。やはり全員が反対との意見であり、5月の意見交換会では子どもたちの意見や意志によって希望により残れるということから、7月の時点で一転してやむを得ない理由がない限り一斉異動との方針が出され、子どもたちの気持ちを考えていないのでは、との意見が出された。
- 学区変更が決まってもいないのに子どもたちの中では「お前は向こうに移動するんだろ」とか「俺はお兄ちゃんがいるからここにいるんだ」との話が子どもたちの中でされている。突然、「お前は東愛宕小に行くんだろ」と言われた子は「僕だけ行くの？」と心に傷を負ってしまい、阻害されたような気

持ちになっているという意見があった。

○子どもが5年生の時に転校になった保護者がいたが、指定校以外の学校に就学できる基準では5、6年生は卒業まで延長可とあるのに、何故5年生は転校になってしまうのかという意見が出された。

○まとめていないので、以下貼布の意見を読み上げる。

- ・環境整備した中に皆が行きたいような学校になってから、転籍を保護者・児童に説明するべきだと思う
- ・子どもの希望を最優先にすべき
- ・学校選択制により、選んで入学した学校から卒業したいと子どもが言っているので移動はさせたくない
- ・東愛宕小と西愛宕小は平成28年度に統合するのに、二小が26年度に転籍させるのはおかしい
- ・二小の建替えに合わせて二小の人数を減らそうと思っているようにしか感じられない
- ・特例措置、経過措置も大切だが、「あの子は転校」で「この子は残れる」ということをどのように説明したら良いのか
- ・子どもに理解してもらうのは大変だと思う。子どもはとても不安だと思う
だからと言って一斉異動は問題だと思う。子どもの気持ちが一番大切
- ・親も納得していない状況で子どもに説明できない
- ・移動先の東愛宕小の教育環境を整えてから転籍を実施してもらいたい
- ・外観だけきれいになっているのではなく、教育の質を良くしてから実施しても遅くはないのではないか

5 グループ発表内容

○人数が少なかったので意見が限られてしまった。先ず、意見としては反対であるというのが大勢である。以前、多摩市の委員会に加わって委員をやっていたが、こういった説明会を開いた後で、こういうところで意見を言うのは反対の方で、賛成する人は意見を言わないと言われたことがある。それを聞いて形だけの説明会であると思った。今回、反対意見が出ている訳だが、委員の方はあくまでも反対の方が来ているだけであって、賛成の方は来ていないということを理解することがあると思う。それだけは止めてもらいたい。パブリックコメントもかなり和田の方が書き込んでいるので、委員の方は全てそれを読んでから来てもらいたい。それぞれに皆不安を抱えている。意見を出すのはごく一部の方で、もっと多くの方が意見を持っているので、そのことを酌んでいただきたい。

○東西愛宕小の統合はだいぶ前から話が出ているのに、学区の話が地元に出てきたのはここ一年位の話であり、急ぎすぎているのではないか。愛宕地区の保護者は人数を増やしたいので、二小から来てほしいと話をしており、二小の保護者かどうかはわからないが、二小は児童が多すぎるから早く行ってほしいという意見もあるようだ。

○そういった部分の意見だけを教育委員会は採用して早く学区割りをしたいということだろうが、竜ヶ峰小との統合に対しても建替えの件が約束であったが、自分が聞いたのは通学路の歩道が狭いので、拡幅するという約束をしたそうだが、未だに拡幅の工事がされていない。改修工事をする、教育環境を向上させるという約束をしても実現される確証はない。このような教育委員会の答弁を半分以下に聞いていないと、出た結果は皆が愕然とすることになると思う。

○9月に決定したいということは早く議会にこれを通して予算化したいというもくろみかと思う。急がず1年、2年地域と話をし、その結果として学区割りをするということにしないと、このままわだ

かまりが残ったまま、二小から出ていただきたいという保護者と愛宕に来てほしいというそれだけの理由で学区割りがされたら、それに入ってしまった子どもたちはずっと不幸な思いをして残りの小学校生活を過ごさなければいけない。

- そういうことを考え、子ども第一の考え方でただ単に人数合わせの線引きではなくて、家から愛宕までかなりの坂を昇っていかなくては学校には行けない。二小に行くのなら平坦な道で学校に通える等、子どもの身体の負担も考えるとやはり地域が違うのではないかと思う。そこをあえて一緒にしようと思ひ、地図上から見れば単に線を引けば良いが、実際の地形を見れば違う地域であることがわかる。子どもが小さい頃、愛宕児童館に行くと山の上なので、愛宕児童館には行かず東寺方児童館に行っていた。子どもの頃から地域の雰囲気はこちら側にあるので、こういったことも含めて考えてもらいたい。

6 グループ発表内容

- 自分たちも他のグループと同じく、この問題提起が違うのではないか。これでは回答できないということで職員に確認し、どうなのかというところから始まった。
- 大きく分けると三つの意見が出ている。まず、進め方がこれで良いのか。二つ目は急ぎすぎではないか。三つ目は正直な親の心情。
- 一つ目についてはパブリックコメントや意見交換会の意見がどのように反映されているかわからない。正直言ってほとんど反対意見が多い。これを以って民主主義としてどのように今回の決定を正当化していくのかその道筋が見えない。未だかつてそれに対しての正直な説明を聞いた覚えがない。黙殺に近い思いがある。子どもの意見についてもどこかに飛んでいるのではないか。特に教育委員会の皆さんは教育を専門としているので、子どもの意見は重要視してほしい。先ほど議員からあったが、ゼロスタートと言うのであれば人数の問題はあるが、東・西愛宕小の統合が先か同時ではないか。向こうの約束を守りながら、急に降って沸いた二小を優先するのは理屈に合わない。皆同じ意見であった。経過措置でこれをどのように選択するか。わざわざ転籍を望む人はいないと思う。そうなった時に複数学級が崩れてしまうとすると、今回の案は意味があるのかという風に問いかけたいと思う。
- 二つ目の急ぎすぎではないかということについて校風を整えて転籍の作業をしようと言っているが、物事はそんなに簡単に進まないと思う。親が安心するためには校風を作ってからこういった活動をするべきではないか。地区委員が言っていたが、東寺方小がそれほど障害がないということは東寺方小は頑張っているからだと思う。東寺方小は頑張っており、良い学校というのがあるから抵抗感がないのではないかと思う。歴然とした差があることは認識されたいと思う。学校間の交流ももっと時間をかけてやるべきではないかと思う。
- 心情的な話として、少人数クラスというのは二小で大きな学校を経験してくると抵抗感があり、いじめや児童間のいざこざの問題はあるようだし、そういう垣根を取り払ってから学区を統合しないと新たな問題が発生すると思う。総合すると、我々としては全員が現段階での転籍には反対である。9月の決定はあまりにも急ぎすぎるのではないか。

7 グループ発表内容

- 7グループはこの形に囚われず、先ずは皆で書きたいことを書くということでスタートした。それを同じような意見をまとめた。皆の同じ意見が多いところは、今回の教育委員会の進め方に対しての不満が多い。5月のときの話と変わったり、皆の意見を入れずに意見交換会を進めたりというところで教育委員会への不満がかなりある。
- 次に意見が多かったのは他のグループも言っていたが、今まで意見交換会をやってきたが、あまりにも強引過ぎて進むのが早く期間が短すぎる。市議会で話をしなければいけないとか、そのような話をよくする。そういった意見は自分たちからすると十分話をして決めたいが、そういう言葉が出る反面我々の意見を吸い上げようとしていない。そういったところから、もっと長い間きっちり問題に関しての話をしてはどうか。
- 3つ目は先ほども出ていたが、三小との話では以前に住民の反対により消えたとの話を聞いている。それで今度は、二小はどうかとの形で話が流れてきている。これに対して流れが違うのではないか。西愛宕小との統合が先ではないか、二小は急ぎすぎではないかという意見が出ている。
- 4つ目は皆一生懸命に家事の合間や仕事から帰ってパブリックコメントを書いてくれたことに対して教育委員会はそれに対する回答が一切無い。礼儀的におかしいのではないか。出してくれと言っているにも関わらず、回答が無いのは違うのではないか。
- 学年一斉方式というのは他のグループからも出ていたが、子どものことを十分考えたやり方ではない。いきなり東愛宕小と言われても納得がいかない。中学校に関しても、小・中はひもついているので、その辺もきちっと考えてやってもらいたい。学校選択制もせつかくのよい制度なので、そういったところは残してもらいたい。兄弟姉妹の在籍に関して、二小に残れるかどうかと言うのは不公平であるとの意見もあった。
- 最終的に教育委員会への不満と今回の転校に関して急ぎすぎなのだ、もう少しきちっとこちらの意見を聞いた上で進めていってもらいたい。

8 グループ発表内容

- グループは母親4名での話し合いとなった。1と2の問いがあったのはわかっていたが、よくわからないのとこのことについて答えるべきではなく、自分たちが不安に思っていることをパブリックコメントにも書いたのに、もう一度問題提起したいことを述べさせてもらおう。
- 今の原案のまま経過措置の感じでいくと、転籍した子が単学級になってしまう学年がある。同地域で二つの学校に分かれてしまうので、帰宅後の遊び場にうまく入れるかというわが子への心配をされている方がいる。5月の時点と違ってCとDを入れたことによって中学校が東愛宕中ではなく、和田中に残ってしまう地域に当たってしまうため、今1年から3年間つながりのある友達と別れて東愛宕小に行かされてしまった場合、中学に戻ってきたときにつながりが薄れてしまうことに親としても子ども自身不安に思っている。転校はすごくつらいと思う。
- 一斉異動方式と言っているが、教育委員会の人去年の1、2月に役員会に来たと言っていたが、そのときに学年進行方式と一斉異動方式について問われた。自分は当時役員をしていたので反対意見を言った。一斉異動方式とは何かと聞いたところ、一年生からだけではなく今二小に通っている子全員が動くことだと言っていた。その時に貰った資料にもあったが、メリット・デメリットが書いてあり、精神的不安と親の負担があり、学校が変わったら行事、学校の授業等何もかも変わるので、そういう

意味の精神的不安によってどうなのかという意見していた人もあったが、反対に何で一斉異動方式が出てきたのか聞いたら、この間やった説明会で未就学児の母親が手を挙げて自分の子が隣のお兄さんたちと同じ学校へ通えないし、通学路を共にできないのは危ないし、怖いからと言ったからである。これがそもそもの始まりで、今となってはそれが置き去りにされてしまった。一斉異動方式にしたのは丁度未就学児の母親の目線でただその人がその場において自分の子のことを言ったからこれに代わったという経緯があったようだ。

- 通学路の安全性が今のところ東愛宕小へは保障されていない。実際、交通事故も多いし、不審者情報も多々耳に入ってきている。地域のつながりがある場所ではないので、近所の人に学校のことを聞くという状況が困難になってしまう。そうした場合、孤立感や疎外感は子どもだけでなく、親にも生まれてしまうと思う。前向きに考えて転籍してしまった場合、新たな友達ができると思うが、新たな友達がどこに住んでいるか誰なのかは今の段階でわからないのでどこの遊び場に行って遊ぶのかを把握しづらいと思う。これは転籍という状況に置かれる人にとって余計なことだと思う。
- 自分はパブリックコメントを一生懸命読んだ。70件全部読んだ中で一番印象に残ったコメントは40年前A地域だと思うが同じような経験をし、二小に一旦入学をした。その後、愛宕学区になり、愛宕に通ったが何故か二小学区に戻った。その時に自分は二小に入学して友達がいたのに急に愛宕だと言われ愛宕に行き、何年か後に二小学区に戻った経験をしたので、自分の子どもにはそんな思いはさせたくないといった父親の切々な文面があった。それを母親目線で見てそのようなことがあったのだと思った。
- それに関連して70件の父母の意見を聞くと、大移動した子が卒業した後、6年後以降のことは保障されないと聞いたが本当か。二小は立地的にも人数的にも地域的にもずっとある学校らしいが、東愛宕小はこの先もしかしたら廃校になってしまうかもしれないということを聞いた時にすごい不安感に襲われた。それを聞いた方もいれば初めて聞いた方もいると思うので、是非答えてほしい。何のために今この子達が転籍ということをしさせられてしまうのか。転籍させられた後、新たな学校づくりが書かれていたが、メリットがあるとか校舎がきれいとかではなく、ほとんどの母親が何故今転校させなくてはいけないのか疑問を持っている。親身になって子どもにも親にも答えてもらわないと新たな学校づくりを進めていく上でも対応策など普通に考えて出てくるとは思えない。数年後、本当に東愛宕小が小さくなってしまえば、行きたくない。盛り上げようとしているが、ずっと盛り上がっていく学校なのか聞きたい。

まとめ内容

- 本日はお忙しい中、熱心にこのような機会にご参加いただきましてありがとうございます。私ども教育委員会といたしましても、この問題は大きな問題ととらえて慎重に意見交換を重ねてきました。傍聴いただいている方もこの中にはいらっしゃると思いますが、傍聴席からは質問、意見はできませんので不満などが残るかと思いますが、パブリックコメントなどを通して意見を出していただくという市の方針で進めておりますので、このような制度を通してご意見をいただくようにしています。これに対する回答がないというご意見をいただいておりますが、事務局としてはご意見を大切に伺っており、私ども教育委員も全部拝見して、いただいたご意見をもとにして意見交換をしています。
- これまでは個々のご意見をいただいております。岩永議員もおっしゃっていましたが、今回は異例な形で市議会議員、教育委員も参加させていただいて、直接、皆様のご意見を伺う機会をいただきました。
- 今日のご都合でお見えになっていない該当地区の方もいらっしゃるのではないかと考えています。このような方のご意見も伺わなければいけないと考えておりますので、アンケートの形でいただくような計画を考えたいと考えています。それらのご意見をいただきながら、この9月・10月の教育委員会で総合的に判断させていただいて最終的な方向性を見出していきたいと考えています。
- 最後に、非常に熱心なご意見をいただいたことに敬意を表し、ありがたく思い、まとめに変えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。